

埼玉県北東部に位置する東武

伊勢崎線「鷺宮駅」。近く

には、人気アニメの舞台
となった「鷺宮神社」

があり、聖地巡礼の
先駆けとなったこと
でも知られている。

鷺宮駅から徒歩約
15分の地に広がるの
が、わし宮団地だ。

この夏、団地の商店街
に新たな「名所」が完成
した。その名も「シャッター

アート」。商店街の縦約2・6m

×横約6mのシャッター4枚に、四
季をモチーフにした色鮮やかなイラ
ストを描写。団地住民や、商店街を
訪れる人の注目を集めている。

取材当日も、20代の女性2人がし
ばし立ち止まってアートを鑑賞して
いた。女性の1人は以前この団地に
住んでいたといい、「前は1枚だっ
たのに、1年ぶりに遊びにきたら4
枚に増えていて感動しました。小さ
いころはこのシャッターの隣がお菓
子屋さんで、よく来ていました。懐
かしい商店街がきれいになって、う

volume 140

変わる 日本の 「暮らし」と 「まち」



阿部民子 text by Tamiko Abe
Illustration by Shigeyuki Sakata

れしいですね」と話してくれた。

○ 作者は学生イラストレーター

わし宮団地は、総戸数2200戸
を超える大規模団地だ。昭和46（1
971）年の管理開始から50年以上
が経過。かつては多くの買い物客で
にぎわっていた商店街には空き店舗
が増え、いつしかシャッターが目立
つようになった。

シャッターアートは、そんな商店
街に活気を取り戻したい、と団地を
管理するUR都市機構が企画したも
のだ。担当するURの小宮正人は
「商店街の活性化はもちろん、団地

○ 新たなアートを生む土壌に

シャッターアートのテーマは「思
い出と煌めき」。4枚のシャッター
に1作品ずつ、春夏秋冬「ありふれ
た日々」に潜むちよっ

とした出会い」が描
かれていく。学校の
長期休暇を利用しな
がら、1枚につき約
3週間をかけ、1年
がかりで完成にこぎ
着けた。

「自分の体験を膨ら
ませながら、見てい
ただく人の日常に溶
け込むイラストにな
れば、という気持ち
でコンセプトを練り
ました。描いている
ときに、団地の方か
ら『すてきだね』『明
るくなったね』など
とお声がけいただき、
描く姿も見えていた
くストリートアートの
醍醐味を実感しま



右／思わず足を止めて
しまうほど鮮やかな色合
いのシャッターアート。
左／制作中の矢島さん。

した」

夏の猛暑や冬の北風のなか、デコ
ボコのあるシャッターに平面に見え
る巨大な絵を描く大変さ、ペンキが
髪や洋服につくなどの苦労はあった
が、夢中になっていたので苦になら
なかったという矢島さん。URとも、
図柄やコンセプトの確認の話し合い
を重ね、現場でもUR職員が交代で
手伝うなど、「URさんと一緒につ
くりあげていった」と話す。

若者のみずみずしい感性で描かれ
たアートは、評判も上々だ。URの
小宮は、その効果が徐々に表われて
いると説明する。

「昔団地に住んでいた方がわざわざ
見に来てくださったり、遠方からこ
の絵を見に来る方もいて、団地に関
心を持つ方が増えました。最近ではア
ートの向かい側に新たな飲食店のオ
ープンが決定。今年の夏には、行政
や地域の方によるこども祭りも盛大
に催される等、アートの誕生と共に
この地域が再び盛り上がりつつきてい
ることを感じます。手伝った職員か
らは、寒い日は大変だったが通りが
かる方々から声がけをいただき、コ

の新たな魅力づくりと、それを契機
に団地や地域へのにぎわいをもた
らしたいと始めました」と企画の意図
を語る。

アートの制作者として白羽の矢が
立ったのが、久喜市在住の学生イラ
ストレーター矢島玲花さんだ。団地
にもっとも近い埼玉県立久喜北陽高
校出身。在学中は、美術部の中心メ
ンバーとして活躍し、現在は美術系
の専門学校に通っている。アート制
作のきっかけを矢島さんに伺った。

「高校在学中に、久喜市主催のマ
ソン大会にポスターが採用されまし
た。その作品を見てくださった市内
の不動産会社さんにお声がけいた
だき、久喜駅前のレストランで窓ガラ
スアートを作成しました。それが地
元の新聞に掲載され、その記事から
URさんにお声をかけていただいた
んです」

若いアーティストとのコラボは、
団地空間での新たな価値の創出とし
て話題に。確かな技術に加え、地元
久喜市への貢献度も高く、団地住民
や商店街の店舗からも歓迎されてい
る。

コミュニケーションが深められてよか
ったと聞いています。今後はこのア
ートを生かし、団地の商店街の皆さ
んやお住まいの皆さんをはじめ、行
政と地域の更なる魅力づくりを進め
ていきたいと考えています」

URでは、これまでも団地をフィ
ールドにしたアート活動をおこなっ
ている。茨城県取手市にある取手井
野団地と戸頭団地では、URの協力
のもと、東京藝術大学美術部と取手
市、市民が「アートのある団地」プ
ロジェクトを始動。いくつもの団地
壁面に大規模な壁画を制作するな
ど、アートでの地域活性化に成功し
ている。

豊かな公共空間と緑に恵まれた環
境、さらに壁面やシ
ャッターすらキャン
パスに見立てる遊び
心のある発想。団地
から生まれるアート
は、地域の活性化だ
けでなく、新たな芸
術やアーティストを
生み、育む可能性も
秘めているのだ。

—— 街に、ルネッサンス ——



【企画制作】新潮社